

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi

ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

紛争の影響を受ける経済見通し



持続的なインフレ圧力とロシアのウクライナ侵攻をめぐる緊張の高まりは、市場のボラティリティを高めており、足元やや落ち着いてきたように見えるものの、未だ正常化の兆しがみられるとまでは言えません。投資家は十分な分散を行い、流動性リスク※1に注意する必要があると考えます。

投資の着目点



経済成長とインフレという難題

長きにわたり、中央銀行はインフレは一過性のものというシナリオを示唆していましたが、もはや通用しない状況となっています。現在、欧州中央銀行と米連邦準備制度理事会は、経済成長に影響を与える可能性のある時期に、インフレの抑制を目指しています。このような環境下では、リスク資産を過度に増やすことなく、バランスを保つべきであると考えます。



インフレと利回り上昇のカクテル

強力なインフレと利回り上昇圧力により、国債には中期的に慎重な見方を持っています。しかし、同時に地政学的な緊張が、国債への「質への逃避」を加速させる可能性があることも注視しています。利回りの動向に応じて、機動的にスタンスを調整することが必要になると考えます。



信用面には慎重に

中央銀行による政策支援の後退と企業業績への懸念は、社債（欧州投資適格債、ハイールド債）の懸念材料となっています。デフォルトの見通しは依然良好であり、バランスシートは強固であるものの、ヘッジの姿勢を維持し、新興国債券の長期的リターンに着目し、銘柄を選択すべきと考えます。



米国株でバリューとクオリティを追求

投資家は投入コストの上昇を消費者に転嫁し、マージンを維持する能力を持つ企業を探る必要があると考えます。また、欧州市場の収益機会が限定的であることから、米国を中心とした地域別の資金配分を図ることも戦略的な好機になりうるとみています。

市場に飛び込むことは時期尚早



市場の価値回復プロセスはまだ途上であり、忍耐強く待つべき時期であると考えます。今後、投資機会の拡大が期待されるものの、分散投資とバランスを保ちつつ、流動性リスクに着目し、インフレ調整後の実質利回りに重点を置く思考を持ち続けるべきでしょう。このような背景から、慎重さを維持しつつも、デレーション※2（米国債など）には積極的なスタンスで臨み、スイスフランなどの安全通貨やコモディティ（金）に分散投資の機会があるとみています。クレジット（信用面）については中立な姿勢を維持する一方、新興国債券や中国国債にインカム獲得の選択的な機会があるとみています。株式については、米国に底堅さが期待されます。全体としては投資家はバリュー銘柄とクオリティ銘柄を選好すべきであると考えます。

※1 マーケットの混乱等により取引量が大きく減少し、即座に売買が行えないことや、通常よりも不利な条件（価格）でしか売買が行えない等のリスク ※2 債券投資における元本の平均回収期間や金利感応度を示す指標

当資料のご利用に当たっての注意事項等

- 当資料は、情報提供を目的としてアムンディ・アセットマネジメントの作成した資料をもとに、アムンディ・ジャパン株式会社が翻訳した資料であり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報をもとに作成されていますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容・数値・図表・意見・予測等は、当資料作成時点のものであり、将来の市場動向、運用成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。

アムンディ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第350号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会